

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-
13	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日

令和2年11月10日、11月11日（UAV撮影：11月12日）

(6) 調査実施者

株式会社パスコ 雑賀修一（調査責任者）

(7) 調査海域の概要

本海域は、平戸島西側に位置する半内湾性の浅海域となっている。第4回、第5回自然環境保全基礎調査では、藻場タイプとして主にアマモ場の分布が確認されているが、近年は減少傾向となっている。

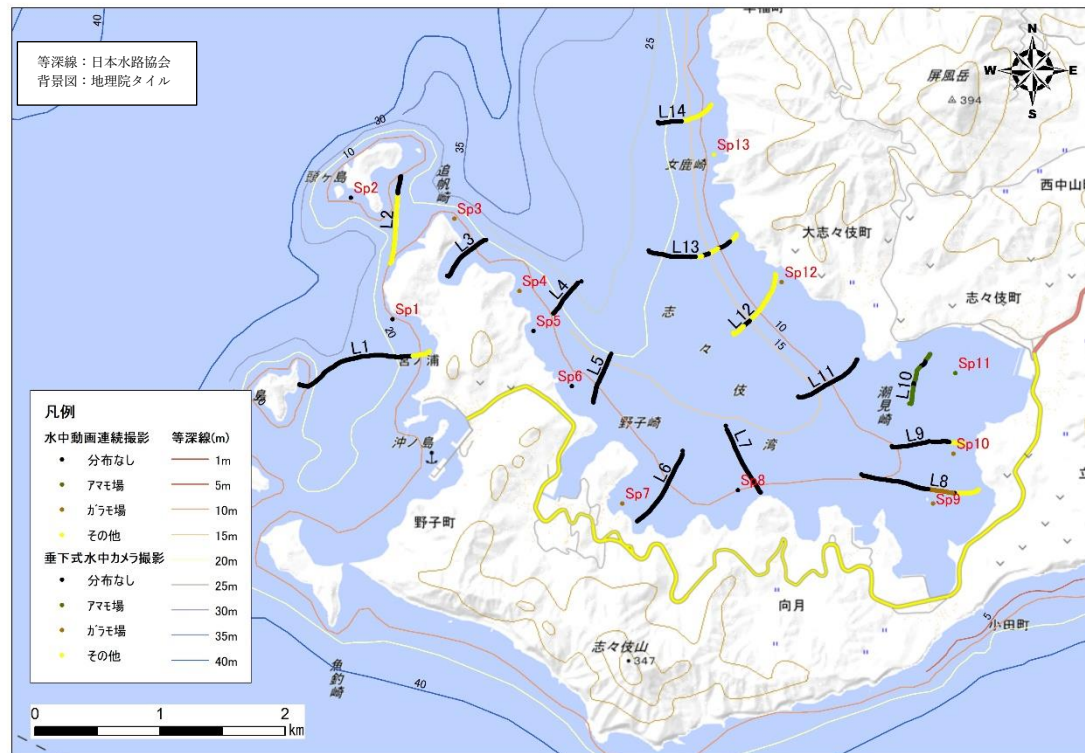
本海域を含む平戸、志々伎湾周辺は、生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）に指定されている。

現地調査は、富江半島の周囲にみられる藻場を対象に実施した。

平戸市志々伎湾沿岸海域での高度100mの年間平均風速は7.0～8.0m/sとなっている（NeoWins（洋上風況マップ）：NEDO）。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：宮之浦から中ノ島にかけての調査測線、水深 D. L-4. 2～-32. 2m、底質は主に砂であるが、宮之浦と中ノ島の岸近くは巨礫、礫などが混在していた。宮之浦側の水深 D. L-10m 付近までは小型藻類が確認され、中ノ島側は軟体サンゴが確認された。

測線 2：追帆崎から頭ヶ島にかけての調査測線、水深 D. L-14. 0～-23. 8m、底質は主に岩盤、巨礫、砂が混在していた。岩盤、礫上等に小型藻類が確認された。

測線 3：志々伎湾湾口西側に位置する入江の調査測線、水深 D. L-3. 5～-24. 1m、底質は主に礫、砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 4：志々伎湾内東側の調査測線、水深 D. L-12. 0～-26. 2m、底質は主に砂、岸近くで礫等が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 5：志々伎湾内東側の調査測線、水深 D. L-4. 5～-21. 2m、底質は主に巨礫、礫、砂の混在であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 6：志々伎湾内東側の調査測線、水深 D. L-4. 5～-17. 4m、底質は主に砂、時折礫が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 7 : 志々伎湾内東側の調査測線、水深 D.L-4.0~-16.9m、底質は主に砂であり、一部礫が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 8 : 志々伎湾湾奥の調査測線、水深 D.L-1.5~-11.3m、底質は主に砂であるが、岸側の水深 D.L-7m程度までは礫等が混在していた。礫上等に部分的にホンダワラ類が点生~疎生で分布しており、小型藻類も確認された。

測線 9 : 志々伎湾湾奥の調査測線、水深 D.L-3.0~-10.1m、底質は主に砂であるが、岸よりの水深 D.L-6m 程度までは巨礫、礫であった。礫上等で小型藻類が確認された。

測線 10 : 志々伎湾湾奥の調査測線、水深 D.L-3.6~-6.9m、底質は主に砂であり、岸よりにおいて礫が混在していた。ほぼ測線全体にわたってアマモ類が点生から疎生で分布していた。

測線 11 : 志々伎湾東側の調査測線、水深 D.L-5.0~-14.6m、底質は砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

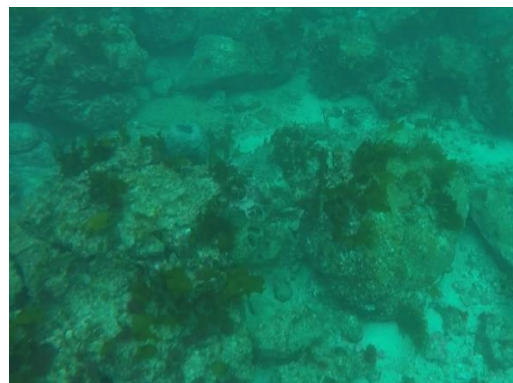
測線 12 : 志々伎湾東側の調査測線、水深 D.L-3.7~-13.4m、底質は礫、砂であった。礫上に小型藻類が確認された。

測線 13 : 志々伎湾東側の調査測線、水深 D.L-3.4~-22.6m、底質は主に砂であるが、多くは巨礫、礫が混在していた。礫上等の一部に小型藻類が確認された。

測線 14 : 志々伎湾東側の調査測線、水深 D.L-3.4~-23.1m、底質は主に礫、砂であるが、岸側の水深 D.L-5m程度までは岩盤、巨礫となっていた。礫上等に小型藻類が確認された。



アマモ類 (測線 10)



小型藻類 (測線 14)

(8) 調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】

地点 番号	水深 (D. Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-9.7	岩塊・巨礫、礫	ー	
Sp2	-11.0	礫、砂・泥	ー	
Sp3	-13.7	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類30%、小型藻類30%	小型藻類との混生藻場
Sp4	-5.3	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類30%	
Sp5	-2.4	岩塊・巨礫、礫	ー	
Sp6	-1.9	岩塊・巨礫、礫	ー	
Sp7	-2.3	岩塊・巨礫、砂・泥	ホンダワラ類30%、小型藻類30%	小型藻類との混生藻場
Sp8	-10.8	砂・泥	ー	
Sp9	-0.3	岩盤	ホンダワラ類60%	
Sp10	-5.5	礫、砂・泥	ホンダワラ類30%、小型藻類30%	小型藻類との混生藻場
Sp11	-5.1	砂・泥	アマモ類60%	
Sp12	-5.0	礫、砂・泥	ホンダワラ類30%、アラメ属10%	アラメ属との混生藻場
Sp13	-7.2	岩塊・巨礫、礫	小型藻類30%、ホンダワラ類10%	ホンダワラ類との混生藻場



アマモ場 (地点 11)

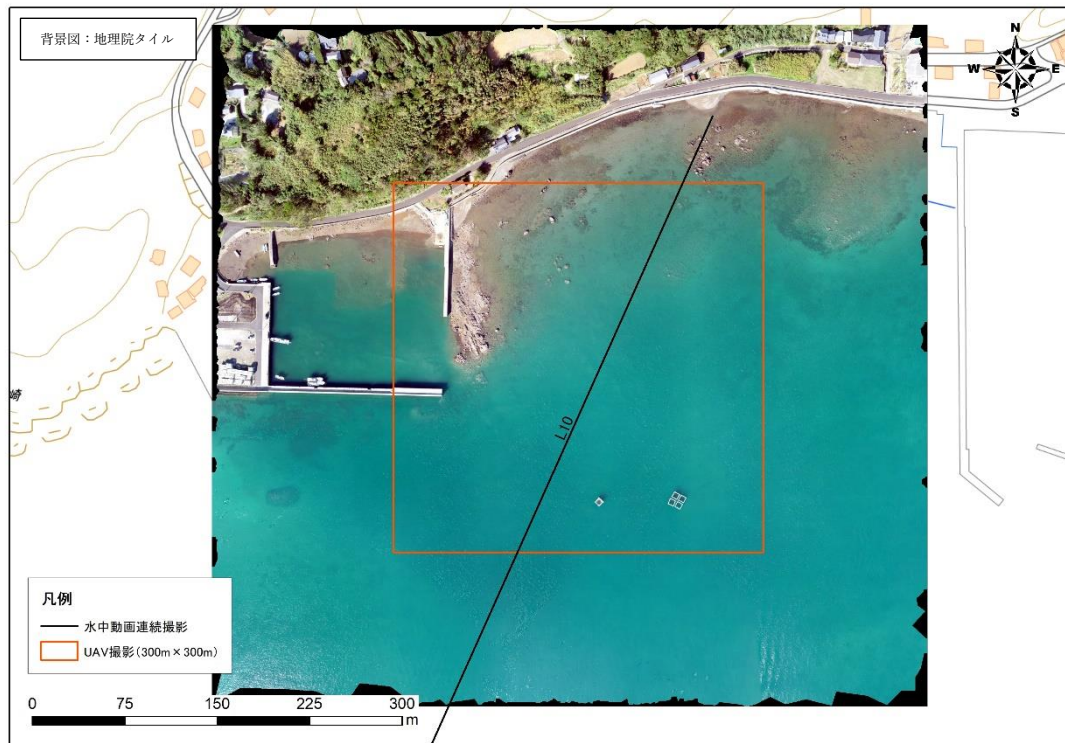


アラメ属とホンダワラ類の混生藻場 (地点 12)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、岸近くにアマモ場がはっきりと確認できる。沖側にもパッチ状にうつすらと確認できる。



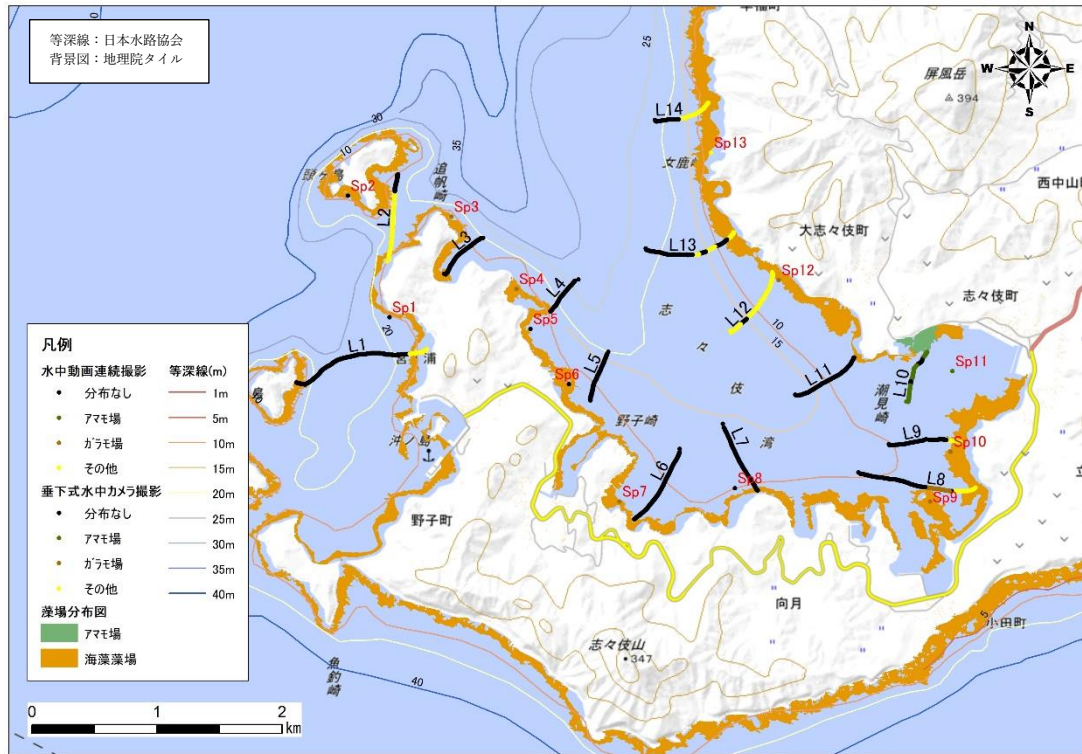
撮影時間	潮位※ ¹	風向・風速※ ²	波高	撮影高度	備考
2020/11/12 14:00～15:00	D. L 0.91m	北北東 3.6m/s	0.5m 以下	149m	

※¹ 潮位は、気象庁平戸瀬戸検潮所における 14 時時点の潮位表基準面上の値

※² 風向・風速は、気象庁平戸観測所における 14 時時点の値

(9) 藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】

